

モモジロコウモリ

Myotis macrodactylus (Temminck)
コウモリ目・ヒナコウモリ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生息洞穴内及び周辺環境悪化により生息地が消滅する危険性があり、生息状況は不安定である。

分布

北海道、本州、四国、九州及び幾つかの島嶼部で生息が知られている。本県では8市町で確認されている。

種の特徴

洞穴をねぐらとしているコウモリで、数百から数千頭の群を形成する。また、コキクガシラコウモリやユビナガコウモリと混群を作る。初夏に1子を出産し、幼獣は生後30日ぐらいで飛翔できるようになる。餌となる昆虫類の飛翔が減少する冬季には冬眠する。

生息を脅かす要因

生息洞穴内に人が立ち入りゴミを投棄する等による環境悪化や懸下しているコウモリに人間が触れる等の行為が挙げられる。

参考文献 阿部永 (1994)、福井県 (1998)、日高敏隆 (1996)、林敏之 (2002)、保科英人・蓑輪隆範 (2005)、保科英人ほか (2008)、百崎孝男 (2009)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○					○	○	○		○	○	○

ユビナガコウモリ

Miniopterus fuliginosus (Hodgson)
コウモリ目・ヒナコウモリ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生息洞穴内及び周辺環境悪化により生息地が消滅する危険性があり、生息状況は不安定である。

分布

本州、四国、九州及び幾つかの島嶼部で生息が知られている。本県では8市町で確認されており、若狭町には数千頭の冬眠集団が確認されている。

種の特徴

洞穴をねぐらとしているコウモリで、数百～数万頭の大群を形成する。初夏になると雌親ばかりの出産哺育集団を形成し、1子を出産する。幼獣は生後30～40日ぐらいで飛翔できるようになる。餌となる昆虫類の飛翔が減少する冬季には冬眠する。

生息を脅かす要因

生息洞穴内に人が立ち入りゴミを投棄する等による環境悪化や懸下しているコウモリに人間が触れる等の行為が挙げられる。

参考文献 阿部永 (1994)、福井県 (1998)、日高敏隆 (1996)、保科英人・蓑輪隆範 (2005)、保科英人ほか (2008)、百崎孝男 (2009)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○				○		○		○	○	○		○

ニホンモモンガ

Pteromys momonga Temminck
ネズミ目・リス科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

巣となる樹洞ができる大径木が自然林の伐採等により消失していることから、生息環境が悪化している。

分布

日本固有種。本州、四国、九州に分布している。本県では4例(大野市上打波嵐谷、鯖江市上戸口町、池田町の足羽川上流、南越前町)での情報があるのみである。

種の特徴

低山～亜高山の森林に生息する。夜行性で主に樹上で活動し、被膜を用いて木々間を滑空し移動する。樹洞を巣にするほか、テングス病の針葉樹の枝の中や樹上に小枝を集めて巣を作る。植物食性で、樹木の芽、葉、花、樹皮、種子、果実のほか、キノコも採食する。

生息を脅かす要因

自然林の伐採による生息環境の分断、縮小が挙げられる。

参考文献 福井県 (1998)、福井県 (1999)、日高敏隆 (1996)、松村俊幸 (1995)、大迫義人 (1996)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○					○		○	

哺乳類